



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月8日

上場会社名 カドカワ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9468 URL <http://info.kadokawadwango.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川上 量生  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 小松 百合弥 TEL 03-3549-6370  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

百万円未満切捨て

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	151,875	1.0	2,943	△60.2	3,455	△54.3	1,705	△69.5
29年3月期第3四半期	150,428	3.0	7,388	17.5	7,565	△0.6	5,585	4.9

（注）包括利益 30年3月期第3四半期 2,349百万円（△57.9％） 29年3月期第3四半期 5,575百万円（△1.6％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	25.37	—
29年3月期第3四半期	82.36	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	240,261	110,100	45.0	1,645.46
29年3月期	246,949	111,724	44.5	1,620.10

（参考）自己資本 30年3月期第3四半期 108,180百万円 29年3月期 109,908百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
30年3月期	—	0.00	—		
30年3月期（予想）				20.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	212,000	3.1	5,800	△31.1	6,200	△16.3	3,500	△39.3	51.60

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	70,892,060株	29年3月期	70,892,060株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	5,147,092株	29年3月期	3,051,562株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	67,237,870株	29年3月期3Q	67,823,126株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報) .....	10
(重要な後発事象) .....	10

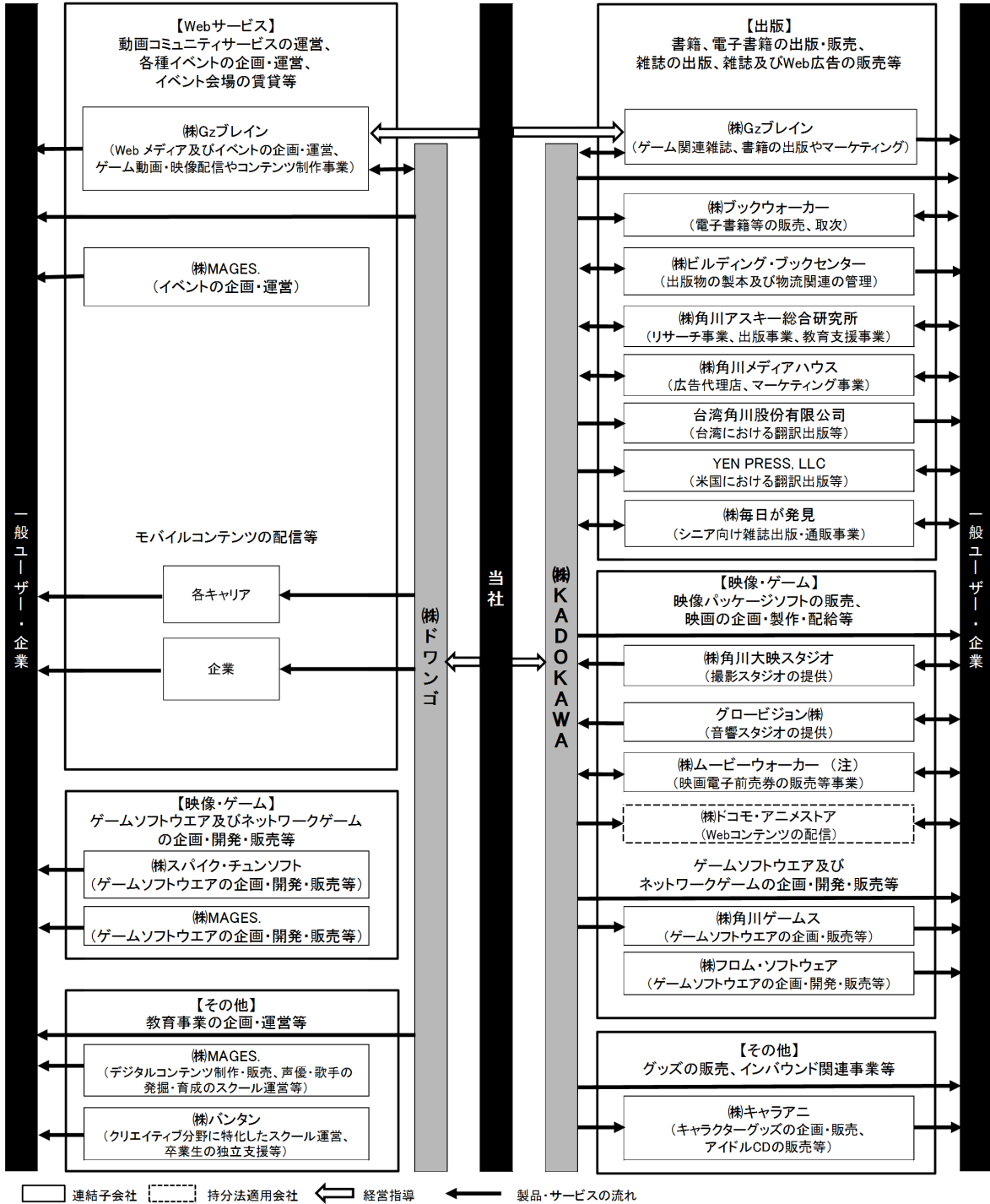
1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、あらゆるコンテンツの価値を高めるプラットフォームとしての飛躍を目指し、出版から総合メディア企業を目指す株式会社KADOKAWAと、ネットとリアルとの融合を目指すIT企業株式会社ドワンゴの創造性を結集しながら、魅力あるコンテンツをあらゆるメディアにマルチ展開させて収益を最大化させるメディアミックス戦略を積極展開しております。

当社は、ゲーム情報ポータル事業を行う事業持株会社として運営してまいりましたが、平成29年7月3日をもって、環境変化へのスピーディーな対応を行うとともに、新中期ビジョンに掲げた「ネット時代のメディアミックスの進化」を着実に推進すべく、①グループのリソースとノウハウを活かしたシナジー事業や新規事業の積極化、②事業子会社における迅速な事業執行、③持株会社におけるグループの迅速な経営判断の実現を目的として純粋持株会社へ移行し、ゲーム情報ポータル事業を会社分割により新設会社である株式会社Gzブレインに承継させました。

当社グループの事業系統図は次のとおりとなっております。



(注) 平成29年7月に、旧社名株式会社エイガウォーカーより社名変更しております。

当第3四半期連結累計期間における各セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

Webサービス事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は223億20百万円（前年同期比4.9%減）、セグメント利益（営業利益）は1億39百万円（前年同期比94.1%減）となりました。

ポータルでは、日本最大級の動画プラットフォームである「niconico」における「ニコニコプレミアム会員」のサービス収入を柱とし、ウェブサイト上のバナー等の広告、有料動画等の関連収益を計上しております。「ニコニコプレミアム会員」の減少が続き当第3四半期末で214万人となったことに加え、「niconico」の新バージョン（く）（読み方：クレッシェンド）や様々な最先端の機能の開発投資負担が先行したことが主な減益要因となりました。

ライブでは、競合する他の動画サービスとの差別化を図るべく、「ネットとリアル融合」をテーマに各種ライブイベントの企画・運営、ライブハウス「ニコファーレ」の運営等を行っております。平成29年4月に開催した「ニコニコ超会議2017」の2日間の会場来場者数は15万4,601人と過去最高を記録、8月に開催した世界最大級のアニソンライブ「Animelo Summer Live 2017 -THE CARD-」には3日間で8万1千人を集め、インターネット文化やコンテンツの価値をリアルイベントで共有することへの関心の高さを確認できました。また、ニコニコ動画で人気のクリエイター陣が関わるNHN PlayArt(株)との共同プロジェクト「#コンパス～戦闘摂理解析システム～」や人気動画配信者のライブツアー関連の事業が収益に貢献しております。

モバイルでは、シングル楽曲/着うた®などの配信を行う総合エンタテインメントサイト「dwango.jp（ドワンゴジェイピー）」や、アニメ総合ポータルサイト「animelo」からの収益を計上しております。有料会員数は減少しておりますが、外注費や広告宣伝費等の固定費削減に努め、収益性を維持しております。

出版事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は829億96百万円（前年同期比0.5%増）、セグメント利益（営業利益）は38億2百万円（前年同期比38.2%減）となりました。

電子書籍・電子雑誌では、(株)NTTドコモが運営する雑誌読み放題サービス「dマガジン」、総合電子書籍ストア「BOOK☆WALKER」、他社の電子書籍ストアでの販売がいずれも好調で、出版業界の厳しい環境の下、増収に貢献しました。

書籍では、「プラタモリ」「女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと」「いのちの車窓から」「角川まんが学習シリーズ 日本の歴史」等、ノンフィクション分野における新機軸のジャンルや児童書で多数のヒット作品が生まれました。しかしながら、平成32年4月にフル稼働を予定している製造・物流一体の最新鋭工場や出版分野での新規事業の準備費用等の負担や、前年同期に歴史的ヒットを記録したアニメ「君の名は。」関連書籍の反動により減益となりました。

雑誌では、創刊30周年を迎えて月刊化した「レタスクラブ」のほか、地域情報誌、テレビ情報誌も堅調でした。販売や広告売上の減少が続く市場環境の下でWebメディアへの移行などビジネスモデルの転換を進めており、Webサイトのページビューや広告収入の増加といった成果につながっております。

映像・ゲーム事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は341億7百万円（前年同期比5.8%増）、セグメント利益（営業利益）は19億85百万円（前年同期比25.7%減）となりました。

映像では、実写作品は「ナミヤ雑貨店の奇跡」が好調であったものの、その他の作品は概して勢いを欠きました。アニメ作品は、「ノーゲーム・ノーライフ ゼロ」、「劇場版 Fate/kaleid liner プリズマ☆イリヤ 雪下の誓い」の劇場収入、既存作品のパッケージソフトや配信権の販売がいずれも好調でした。しかしながら、前年同期比では記録的なヒットを記録した「君の名は。」の反動が主な減益要因となりました。

ゲームでは、コンソールゲーム「ARK: Survival Evolved」「DARK SOULSⅢ」の販売、アプリゲーム「天華百剣-斬-」「結城友奈は勇者である 花結いのきらめき」からの収益、「ダンガンロンパ」シリーズの旧作を中心としたSteamでの販売が好調でした。

その他事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は148億82百万円（前年同期比3.0%増）、セグメント損失（営業損失）は4億61百万円（前年同期 営業損失7億70百万円）となりました。

その他事業では、ネットとリアルを融合させた双方向性を特長とする教育プログラムの提供や、クリエイティブ分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営を行う教育事業、キャラクター商品の企画・制作・販売やアイドルCDのeコマース等のMD（物販）事業を主に行なっております。東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年を収益化の目途として、インバウンド事業の準備も進めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,518億75百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益29億43百万円（前年同期比60.2%減）、経常利益34億55百万円（前年同期比54.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益17億5百万円（前年同期比69.5%減）となりました。

なお、株主還元の充実及び資本効率の向上を図るため、平成29年8月24日開催の定時取締役会において平成29年12月29日までを対象期間、2,500千株、30億円をそれぞれ上限とする自己株式の取得を決議したことに伴い、2,281,400株、2,999,948,800円の取得を完了しました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて66億88百万円減少し、2,402億61百万円となりました。自己株式の取得、支払手形及び買掛金並びに賞与の支払等により現金及び預金が減少しました。

負債は、前連結会計年度末に比べて50億63百万円減少し、1,301億61百万円となりました。返済により長期借入金が増加したことに加えて、支払手形及び買掛金並びに賞与引当金が減少しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて16億24百万円減少し、1,101億0百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加した一方で、配当金の支払等により資本剰余金が減少し、さらに自己株式の取得により株主資本が減少しました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、賞与及び法人税等の支払等により、13億55百万円の支出（前年同期は15億42百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預け入れや有形固定資産及び無形固定資産の取得等により、80億35百万円の支出（前年同期は92億31百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済及び自己株式の取得等により、57億93百万円の支出（前年同期は377億5百万円の収入）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて151億88百万円の支出となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、759億52百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから、通期の業績予想のみを開示することとしております。なお、通期連結業績予想については、平成29年5月11日に公表しました業績予想から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	105,542	94,630
受取手形及び売掛金	40,207	41,534
たな卸資産	16,829	18,373
前払費用	1,532	1,494
繰延税金資産	5,595	5,106
預け金	2,547	2,242
その他	3,364	4,468
貸倒引当金	△737	△796
<b>流動資産合計</b>	<b>174,880</b>	<b>167,053</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	15,565	15,680
減価償却累計額	△4,637	△5,057
建物及び構築物 (純額)	10,927	10,623
機械及び装置	718	1,566
減価償却累計額	△322	△540
機械及び装置 (純額)	396	1,025
工具、器具及び備品	10,342	10,866
減価償却累計額	△7,267	△7,755
工具、器具及び備品 (純額)	3,074	3,111
土地	20,275	19,965
建設仮勘定	976	1,687
その他	353	346
減価償却累計額	△204	△236
その他 (純額)	149	109
<b>有形固定資産合計</b>	<b>35,800</b>	<b>36,522</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	5,792	5,715
のれん	925	1,237
その他	1,661	1,740
<b>無形固定資産合計</b>	<b>8,379</b>	<b>8,693</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	21,029	21,543
退職給付に係る資産	55	54
差入保証金	3,762	3,951
その他	3,654	3,014
貸倒引当金	△613	△570
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>27,889</b>	<b>27,991</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>72,068</b>	<b>73,207</b>
<b>資産合計</b>	<b>246,949</b>	<b>240,261</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,862	24,219
短期借入金	481	497
1年内返済予定の長期借入金	2,158	2,156
未払金	6,823	5,392
未払法人税等	1,801	661
前受金	7,538	9,016
預り金	2,617	3,578
賞与引当金	3,262	1,442
ポイント引当金	90	96
返品引当金	7,252	6,946
株式給付引当金	124	133
役員株式給付引当金	286	126
その他	2,858	3,018
流動負債合計	61,159	57,286
固定負債		
長期借入金	64,941	63,400
繰延税金負債	3,977	4,226
退職給付に係る負債	3,331	3,265
その他	1,814	1,982
固定負債合計	74,065	72,874
負債合計	135,224	130,161
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,625	20,625
資本剰余金	63,585	62,096
利益剰余金	27,808	29,514
自己株式	△4,889	△7,466
株主資本合計	107,130	104,769
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,561	2,354
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	1,194	1,019
退職給付に係る調整累計額	11	26
その他の包括利益累計額合計	2,778	3,411
非支配株主持分	1,816	1,919
純資産合計	111,724	110,100
負債純資産合計	246,949	240,261



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	150,428	151,875
売上原価	105,682	111,213
売上総利益	44,746	40,661
販売費及び一般管理費	37,357	37,718
営業利益	7,388	2,943
営業外収益		
受取利息	64	70
受取配当金	227	300
持分法による投資利益	610	542
その他	387	291
営業外収益合計	1,289	1,205
営業外費用		
支払利息	72	74
寄付金	989	610
その他	51	9
営業外費用合計	1,113	693
経常利益	7,565	3,455
特別利益		
持分変動利益	22	—
固定資産売却益	—	21
投資有価証券売却益	22	425
投資有価証券償還益	—	125
子会社株式売却益	—	13
特別利益合計	44	585
特別損失		
投資有価証券売却損	—	196
投資有価証券評価損	—	32
関係会社清算損失引当金繰入額	—	71
会員権評価損	26	43
その他	10	0
特別損失合計	36	343
税金等調整前四半期純利益	7,573	3,697
法人税等	2,014	1,977
四半期純利益	5,559	1,719
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△26	14
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,585	1,705

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	5,559	1,719
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,763	793
繰延ヘッジ損益	5	—
為替換算調整勘定	△1,565	△177
退職給付に係る調整額	31	15
持分法適用会社に対する持分相当額	△217	△1
その他の包括利益合計	16	630
四半期包括利益	5,575	2,349
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,656	2,338
非支配株主に係る四半期包括利益	△80	11

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	7,573	3,697
減価償却費	3,619	3,998
のれん償却額	142	179
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	74	△42
返品引当金の増減額 (△は減少)	△974	△303
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,089	△1,820
受取利息及び受取配当金	△292	△371
持分法による投資損益 (△は益)	△610	△542
売上債権の増減額 (△は増加)	△130	△1,304
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,272	△1,556
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,282	△1,655
前受金の増減額 (△は減少)	△462	1,475
その他	△910	△1,002
小計	3,384	749
利息及び配当金の受取額	421	553
利息の支払額	△65	△61
法人税等の支払額	△2,198	△2,598
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,542	△1,355
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△4,554	△4,339
有形固定資産の取得による支出	△2,926	△3,481
無形固定資産の取得による支出	△1,969	△1,761
投資有価証券の売却による収入	517	1,244
投資有価証券の償還による収入	—	225
保険積立金の解約による収入	913	33
連結の範囲の変更を伴う子会社持分の取得による支出	△1,039	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	21	—
その他	△193	44
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,231	△8,035
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	342	22
長期借入れによる収入	50,000	18
長期借入金の返済による支出	△11,641	△1,490
非支配株主からの払込みによる収入	464	114
自己株式の取得による支出	△2	△3,001
配当金の支払額	△1,378	△1,391
その他	△80	△65
財務活動によるキャッシュ・フロー	37,705	△5,793
現金及び現金同等物に係る換算差額	△341	△4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	29,674	△15,188
現金及び現金同等物の期首残高	52,175	91,140
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	43	—
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	329	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	82,223	75,952

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	23,269	81,499	31,749	13,900	150,419	8	150,428
セグメント間の内部 売上高又は振替高	207	1,079	486	546	2,319	△2,319	—
計	23,476	82,579	32,235	14,447	152,739	△2,311	150,428
セグメント利益又は 損失 (△)	2,367	6,151	2,671	△770	10,419	△3,030	7,388

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△3,030百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去105百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益1,272百万円、全社費用△4,408百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	22,190	81,792	33,432	14,403	151,817	57	151,875
セグメント間の内部 売上高又は振替高	129	1,204	675	479	2,489	△2,489	—
計	22,320	82,996	34,107	14,882	154,307	△2,432	151,875
セグメント利益又は 損失 (△)	139	3,802	1,985	△461	5,465	△2,522	2,943

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△2,522百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去111百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益1,509百万円、全社費用△4,143百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。